

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自理念を作り、玄関及び共有スペースに掲示しております。利用者はじめ訪問者にも解るようにしています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に全員で復唱し、目に触れる場所に掲示する、理念について各職員がどう考えているのかをアンケートしたりと、実践に向けて日々取り組んでいます。	○ 今年度は、「その人らしいあり方を目指す」をテーマに取り組んでいます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用時にご家族に理念の説明をし理解を頂いています。また、地域行事への参加、散歩時の挨拶、運営推進会議を通して等地域の方々に理解を深めていただけるよう努力しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接して保育所、児童養護施設、近隣に小学校、学童保育所があり子供たちとその父兄との交流があります。又、農業地にあり散歩時には、挨拶や時節の話をしたり、野菜等を頂戴したりとご近所づきあいができるよう努めています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学童保育所の校庭を借りての花見や地域の祭礼への参加、散歩時のゴミ拾いや学校帰りの子供たちへの声かけなど地元との交流に努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じ、随時ボランティア受け入れや介護相談、災害時の支援等できる範囲で役立てるよう取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が理解しています。私どもはいつでも、誰でも気軽に訪問いただける事業所でありたいと考えています。又、ご指示については、改善に向けて真摯に取り組んでいます。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度は4回開催し、利用者の状況や生活ぶり、評価の改善等話し合いを重ねています。委員の方々からも率直なご意見がいただけ、また地域の代表者の参加があることから地域の皆様の考えなども判り、サービス向上に役立てています。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行方市介護支援専門員連絡協議会に参加、市町村担当者や地域包括支援センターとの情報交換また隨時行き来し施設に立ち寄り頂いています。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人はそれらを活用できるよう支援している	全員の理解は不十分と思われます。概略はパンフレットを用意したり種々の研修の際、見聞を広めています。	○	管理者が成年後見保佐人を受任しており多少の知識は備えております。勉強の機会を提供したいと考えます。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修や外部研修にて学習してきたことを全職員に報告し理解しています。。また、見過ごされることの無いよう相互に注意を払うよう職員会議等にて話し合いをしています。	○	虐待防止、身体拘束廃止、権利擁護は当法人の学習テーマの1つです。今年度は継続学習を予定しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に文書及び口頭で説明、納得の上契約に至っています。又、解約時には今後の方向性を関係者と話し合い、利用者、家族が納得のいく将来が築けるように協力、支援しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口の設置をしています、毎日の生活からの声、代弁してくださる家族等の声に耳を傾け、真摯に受け止め改善や運営に役立てています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづらや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期報告として月1回、広報誌の発行、毎月の収支、領収書の送付、利用者の生活ぶりや医療情報を文書にて報告しています。個々には随時、心身状態の変化時や本人の希望に合わせ面会時や電話にて報告しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、意見や要望が出しやすい雰囲気づくり、声かけに努めています。玄関には、苦情受付箱を設置、第三者委員を設けるなど窓口の整備、利用契約書にても機会を設けていることを謳っておりまます。頂いた意見は真摯に受け止め運営に反映させます。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている	職員会議、研修時や運営計画書作成時等の意見交換を通じた、提案は随時検討し運営に反映しています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いによって、職員に理解を求め、必要時には必要な職員が配置できるよう努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるよう業務上の指導。職員間の和を大切にしています。また、代わる場合は、利用者・家族等個々に挨拶をし交代者への情報提供をするなど影響への配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には研修委員会が設置されており、スキルアップ講習・上級救命講習会・資格取得講座が開催されています。採用時研修や外部研修にも参加しています。学習したい職員に対する他の職員の理解も大きいです。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には多種の関連施設があり研修会や意見交換・情報交換の機会が多数あります。又、行方市や周辺地域の行政等主催の研修会に参加し資質向上やサービス向上に努めています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、常に職員の和を大切にしています。悩みや不満が最小限に止まるよう、その場に応じ話し合いや相談を重ねています。又、法人傘下の施設数も多くレクリエーションや研修を通して交流や意見交換が出来、ストレス軽減に努めています。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が平等に研修への参加や資格取得に向けての学習ができるよう配慮しています。利用者や家族・運営推進会議委員から頂戴した言葉など向上心につながるもののが大きいと感じます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前には、本人・家族と面接をし、困っていることやどうしたいかなど思いの把握に努めています。不安を取り除くために利用前の施設見学も実施しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の気持ちを思いやり、介護へのねぎらいを忘れずに相談や利用前面接に臨みます。利用者と一緒に施設見学をしていただくなど不安を取り除く機会も設けています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	此處で良いのか、他のサービスも考えられるのか、今何を支援できるのかを考えながら必要なサービスを提案し、他者につなぐ等努めています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験利用を勧めています。場の雰囲気を感じじとて頂きながら支援内容を説明しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	過去の経験や生活歴を大事にし、共に暮らすことで利用者の日常の何気ない姿や言動に学ぶことが沢山あります。風習の過去と現在を情報交換したり、若い世代にはない考えをうかがったりと勉強になります。利用者・職員ともに感謝の言葉が日常的に聞かれます。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居後の様子を文書でお知らせしたり、面会時を利用してや随時電話で伝えながら、利用者の今を報告することや面会や外出、外泊等を通して家族も本人を支える努力をしています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、家族個々に関係の違いがあり、良好な関係を維持できるようにまた、歩み寄れるような関係も築けるよう努めています。随時の報告によりご家族も対応を考えて面会をしている方もおられます。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	面会、電話、手紙、外出、外泊など自由にしていただき、継続して良好な関係が保てるよう支援しています。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し個別に関わりながら、グループ活動での支援をしたり、互いに助け合う場面を設けたりと孤立化しない介護に努めています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も病院や施設を訪問したり、その後どうしていますか等の連絡をしています。利用終了が最後の関わりではなく、その後の相談やサービス提供に至るまでの支援もしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ること、したい事、思いを利用者や家族、関係者から利用までに面接や情報提供により微しました、本人本位に検討し把握に努めています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前面接で本人、家族や担当ケアマネ等から情報を収集し把握に努めています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしく自由に過ごすを基本としているが、毎日各人「アセスメントシート」を作成、心身の状態や経過を記入、現状の把握に努めています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用前面接や契約時の本人、家族の意向を重視し、関係者からの情報も取り入れながら、包括的自立支援プログラムと一部センター方式を取り入れて介護計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間終了後には、モニタリングを実施、見直しを行っています。状態に変化があった時はその都度、本人、家族、関係者と協議し新たな支援計画を策定します。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>アセスメントシート、ケース記録、バイタル表、排泄、入浴記録簿等を作成し心身の状態や行動を記録、閲覧や引継ぎにより共有しており、実践や介護計画に反映しています。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人を取り巻く背景を含め、当施設で出来るることは柔軟に対応しています。法人傘下の施設も多いことからその支援は多岐にできるものと思っています。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>在宅時の民生委員の訪問や、ボランティアの受け入れ、警察の立寄りや消防署の指導など地域の資源は必要時協力や支援があります。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>行方市介護支援専門員連絡協議会に参加しております、意見交換や情報提供、学習の機会があり、他のサービス利用の支援にも努めています。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>行方市は地域包括支援センターが介護支援専門員連絡協議会の窓口になっており、必要な情報や資源、学習の機会等があり、常に協働の体制が出来ています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に本人・家族の希望を伺い対応しています。基本的に利用前のかかりつけ医としていますが、その時の状態により納得が得られた医療機関を利用する場合もあります。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの病院に相談し指示を受けています。また、当施設の協力病院が精神科、神経科を有し、認知症に関する治療も行っており随時、相談や受診が可能になっています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医や法人傘下事業所やケアマネである看護職と、利用者の疾患や内服、受診の可否など健康管理や医療活用について相談や支援をいただいている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はマメに様子を見に行き、本人・家族・医療機関と情報交換や説明をうける機会を設けたり、必要な支援を相談するなど対応しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を踏まえ医師と連携を図り、重度化や終末期に対応すべく取り組んでいます。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来るだけ本人等の意向を尊重するが、当施設の限界をも見極め、本人・家族に安心して予後を過ごせるよう今後の方向性については早い段階から相談や情報提供するなど取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<input type="checkbox"/> 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮してさりげない言葉かけや誘導をしています。個人情報の取り扱いについては、「個人情報に関する指針」に沿って取り扱いをしています。		
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に寄り添い言動を見守ることや平等に接することで、「判る。できる力」にあわせた説明、支援をしています。思いを表出できる雰囲気や場の設定も実施しています。		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはありますが、一人ひとりの体調や気分を配慮し自由な生活を支援しています。		

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人に合った衣服を自ら選んだり、おしゃれを楽しめるように一緒に買物に出たり家族に依頼したりしています。希望に合わせ訪問理容や地域の馴染みの理・美容室も利用できるようにしています。		
----	---	---	--	--

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物は代替食を用意したり盛り付けを工夫したりと、また体調、機能に合わせた形態で提供しています。食材を分けたり、味付けをみて頂いたり、盛り付けや配膳、片付けは一緒にしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、かかりつけ医と相談の上楽しめるよう支援しています。	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録簿やアセスメントシートを活用し、個々のパターンを把握し、羞恥心に配慮した声かけ、誘導、介助を実践しています。オムツを使用してもP-トイレやトイレ利用を並行しています。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日出来ます。時間帯は午後3時以降としていますが、希望により時間や入浴、シャワー、清拭等個別に応じています。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心身の状態や希望、習慣に合わせ、安眠、休息が出来るよう室内の温度や明るさ、音など配慮しています。日常的に安定した穏やかな心身状態で居られるような支援も心がけています。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を重視し、又能力を活かした役割や生きがいの持てる生活ができるよう介護計画を立てて実践しています。現在出来ていることが継続できる支援も重要視しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、家族の了解の上所持しています。その他は、希望に応じて一緒に買物をしたり、買物時に渡すなど能力に合わせています。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、外気浴を行うなどしています。又、ドライブや花見、地域のお祭りなどその時節に合わせ計画を立て外出の機会を設けています。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事での外出の可否は、利用者に募っており数人から全員までと対象人員はその時の内容や場所、目的により決めています。個別の外出、外泊は家族の協力を得ています。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも利用できます。自ら利用しない方々には、必要に応じて「思い」を伝える支援もしています。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に会えるよう場所の設備やゆっくりとくつろげるよう湯茶の接待もしています。面会時間等についても制限はありません。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はありません。又今後も、身体拘束はしないケアに取り組んでいきます。現在、法人主催にて身体拘束廃止について勉強会を開催しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていません。本人が施錠する以外には、居室に施錠もありません。危険防止に玄関にセンサーの設置、窓には二重鍵を用い、株セコムには非常通報、警備を委託しています。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、見守り、様子観察、所在確認をして安全に配慮した介護にあたっています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人にとって必要なものはあるはずで、個別ケアと常時の見守りで対応しています。医薬品や刃物は職員が管理しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種研修や上級救命講習を受講し、事故防止に取り組んでいます。利用者一人ひとりの状態把握も不可欠です。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が上級救命講習を受講しており、定期に講習を受けています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練、避難訓練を消防署立会いで行っています。必要な物品の準備もしております、地域の消防団にも協力を得られるようお話ししています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時、電話、手紙などで様子を伝えて予見されるリスクを話し合い、拘束のないケアを提供しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時にバイタルチェック、随時に様子観察を行っており状態に変化があった時は、連絡を密にして早期対応をしています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は一人ひとりが理解しています。内服の管理、服薬の支援、症状の変化は常に確認しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分不足、運動不足にならぬよう好みの飲み物を用意したり、何種類かの体操を取り入れて毎日実施しています。栄養士による栄養管理、かかりつけ医の指導も受けています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	物品準備や声かけにて口腔ケアを促しています。清潔ケアが不十分な利用者には、介助をしています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を調理し、個々に合わせた量、形態にて提供しています。摂取量も毎日記録しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 78 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアル作成済み。マニュアルに則り感染症防止に努めています。		
79 ○食材の管理 79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	整理整頓。清掃の実施にて衛生管理に努めています。調理用具は毎日消毒しています。食材は地元商店より毎日買い入れた物を調理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が駐車場、玄関の周りには、花壇や花を置き、少しの野菜も作るなど季節を感じられるよう努めています。座って話しも出来るようベンチも置いています。日本家屋にあるような2階建てです。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 81 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きくとってあり、陽の光はカーテンで、音量は違和感、不快感のないよう調整しています。花や作品で季節感や和やかな空間を作るよう努めています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 82 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりが良く、外の風景が良く見えて自然の緑や子供たちの遊ぶ姿が見えます。個室の居室やテレビ、ソファーのあるリビングなど自由に過ごせる居場所の工夫があります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を置くなどして、安心して生活が出来るようにしていますが、画一的になっていることが多い。	○	家族等に依頼し、その人らしさが出せるような空間作りを工夫をしたいと思います
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉や換気扇を利用し、換気に注意しています。ホーム内には、温度計、湿度計を設置し適切な温度に設定しています。空調の温度管理は職員が利用者にうかがい調整しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで各所に手すりを設置しています。福祉用具が必要な利用者は、職員、家族、専門家の意見を取り入れ安全に自立した生活が送れるよう努めています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態、能力をアセスメント、目標物の表示や動きや表情から察しての介護をすることにより混乱等を防ぎ安全な自立した生活を送れるよう支援しています。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは芝生で緑や散歩が自由に出来るようにしています。ベランダにはプランターを置き、花を楽しんでいます。デッキもありお茶を楽しむ機会も設けています。		



部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている ②少しづつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣接する保育園児とは毎週1回、交流会を持ち誕生日を祝って頂いたり「遊び」を通してのふれあい活動を実施しています。保育園や子育て支援センターのお子さんやご父兄を通し、元気な声や姿を随時目にすることが出来、自らのご家族に重ねたりもされて居られます。近隣には、児童養護施設や小学校、学童保育所や県立高校と福祉関係や教育機関があり、それぞれに交流があります。豊かな自然環境の中で人情味溢れる地域の方々の支援もいただけるようになりつつあります。法人傘下の事業所も多く、利用者様に合ったサービスの選択肢も豊富と考えます。関連施設での医療面のバックアップもあり利用者様はじめ職員も心強く思っています。利用条件に合致すれば車椅子や寝たきりの方の受け入れも可能です。理念の1つ「その人らしいあり方」を追及しながら地域に愛される施設運営を実践していきます。